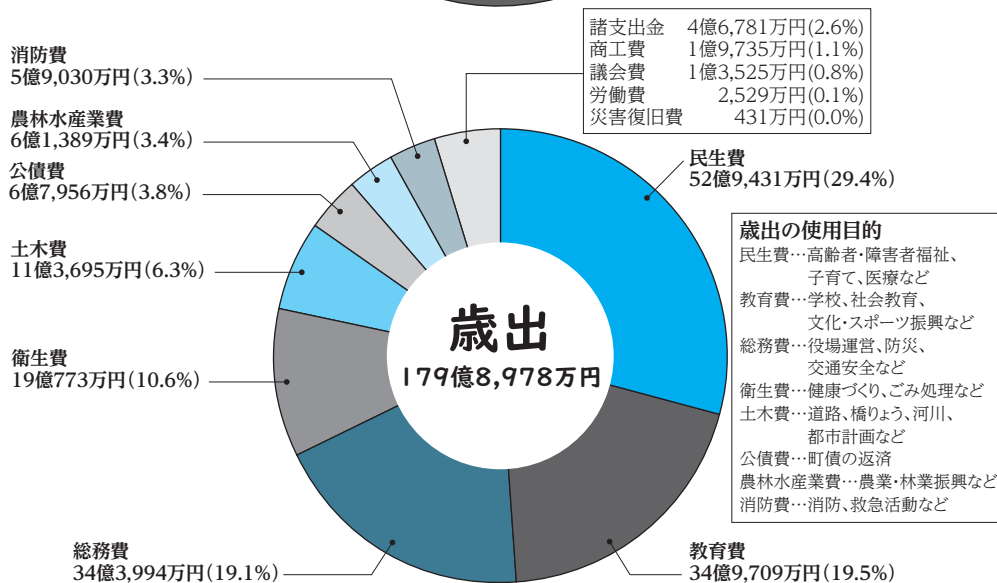
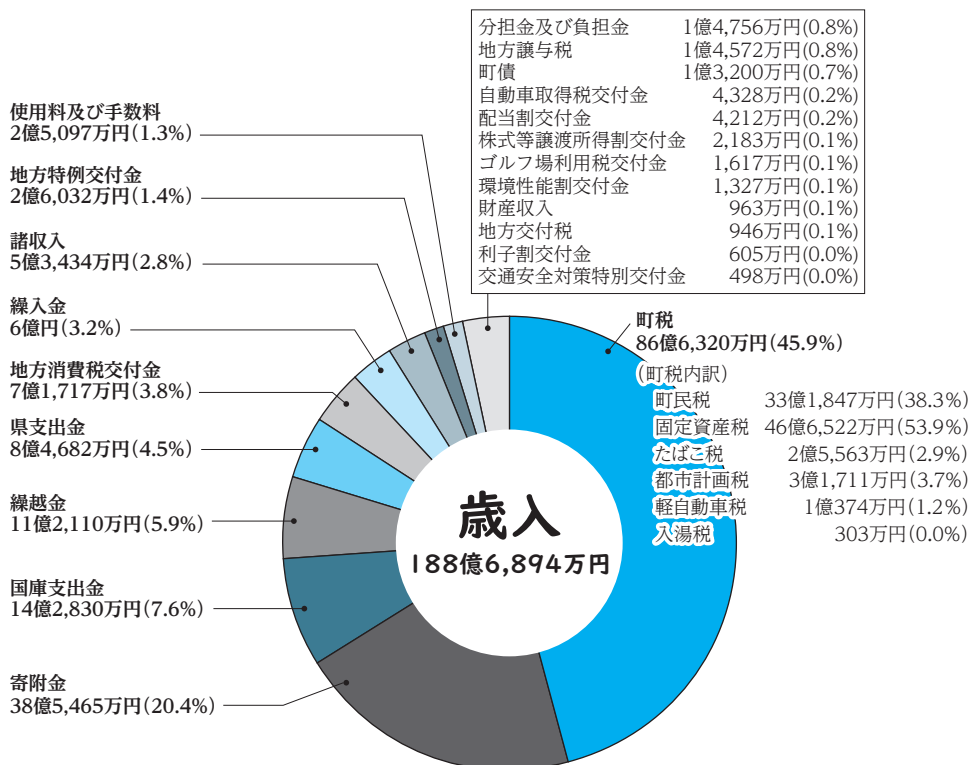


令和元年度決算報告と町の財政状況

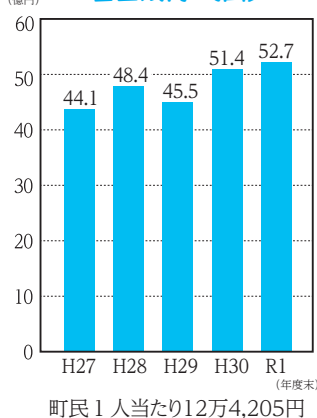
わが町のお金の使い方

一般会計

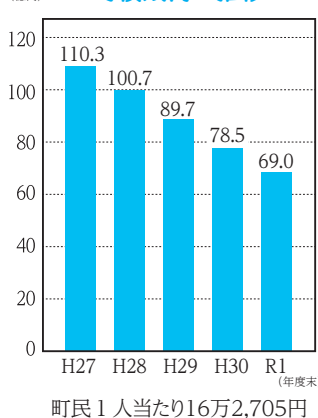


今年もわが町の台所事情をお知らせする時期がきました。皆さんが納めた貴重な税金や国・県からの補助金などが、幸田町のまちづくりによろしくに使われたのかをお知らせします。

基金残高の推移



町債残高の推移



* 一般会計と特別会計の合計額で算出しています。

基金(貯金)の残高は、52億7456万円です。大幅に税収が減少した場合や災害などの予定外の支出に備える「財政調整基金」(約31億4000万円)など8つの基金に積み立てています。

令和元年度末の町債(借金)の残高は、69億358万円です。道路や学校など長期間使用する施設の建設には、多額の経費が必要となります。町債で賄うことは、後世代の人にも公平に負担していただく意味もあります。

借金・貯金の状況

決算状況

会計名				歳入(a)	(伸び率)	歳出(b)	(伸び率)	差額(a)－(b)
一 般 会 計				188億6,894万円	(17.6%増)	179億8,978万円	(20.5%増)	8 億7,916万円
特別会計	土 地 取 得 特 別 会 計			2,139万円	(0.1%増)	70万円	(8.2%増)	2,069万円
	国民健康保険特別会計			31億7,260万円	(3.0%減)	31億6,939万円	(3.1%減)	321万円
	後期高齢者医療特別会計			4 億1,927万円	(3.8%増)	4 億1,904万円	(3.8%増)	23万円
	介 護 保 険 特 別 会 計			19億6,674万円	(5.3%増)	19億4,113万円	(5.2%増)	2,561万円
	幸 田 駅 前 土 地 区 画 整 理 事 業 特 別 会 計			2 億2,310万円	(11.1%増)	2 億1,954万円	(9.4%増)	356万円
	農業集落排水事業特別会計			3 億5,213万円	(0.5%減)	3 億5,213万円	(2.1%増)	0万円
公営企業 会計 (税抜き)		水道事業 会計	収益的収支	7 億9,585万円	(0.6%減)	6 億6,140万円	(3.3%増)	1 億3,445万円
			資本的収支	7,877万円	(22.4%減)	2 億5,649万円	(10.7%減)	▲ 1 億7,772万円
		下水道 事業会計	収益的収支	6 億5,846万円	－	6 億3,195万円	－	2,651万円
			資本的収支	3 億2,663万円	－	4 億1,270万円	－	▲ 8,607万円
総 合 計				268億8,388万円	(13.3%増)	260億5,425万円	(15.8%増)	8 億2,963万円

都市計画税の使いみち

都市計画税は、都市計画事業などのための目的税で、下記の事業に充てられています。

事業名称	事業費	都市計画税の充当額
道路新設改良事業	8,711万円	1,988万円
土地区画整理事業	1 億5,273万円	1 億1,979万円
公共下水道事業	2 億2,241万円	1 億7,744万円
合 計	4 億6,225万円	3 億1,711万円

入湯税の使いみち

入湯税は、入湯客に課されるもので観光の振興および観光施設の整備などに要する費用のための目的税で、観光事業に充てられています。

事業名称	事業費	入湯税の充当額
観光事業	1,577万円	303万円

森林環境譲与税譲与金の使いみち

森林環境譲与税譲与金は、森林整備およびその促進に関する費用に充てることとして市町村に譲与される地方譲与税譲与金で、林道整備事業に充てられています。

事業名称	事業費	森林環境譲与税譲与金の充当額
林道整備事業	253万円	233万円

えこたんの解説



一般会計の歳入は、平成30年度と比べると約21億1700万円増の決算となりました。これは、国や県からの補助金の増加やふるさと納税で全国の皆さんから多くの寄附金をいただくことができたからなんだよ。歳出も、豊坂小学校の校舎増築工事、北部中学校の校外用地整備工事、小中学校への空調設備の整備などによる教育費の増加、それから前のページでも説明した財政調整基金に積み立てを行ったことによる諸支出金の増加などにより約30億6000万円増えたんだ。令和元年度に実施した主な事業は、5ページで紹介しているから見てみてね。借金の返済にあたる公債費は、県内では割合が高い方だったけど、近年になってずいぶん低くなったよ。これからも引き続き健全な財政運営に取り組んでいかないといいないね。

一般会計の他に6つの特別会計と2つの企業会計が設けられているんだ。特別会計は、特定の事業のために財布を分けて管理しているというイメージだね。企業会計は水道事業会計と下水道事業会計のことで、町の水道事業と公共下水道事業はここで運営しているよ。限られた財源を活かしながら、町ではさまざまな事業が進められているんだよ。

幸田町の家計簿

町の財政状況を分かりやすくするため、令和元年度の一般会計決算額を人口42,340人（令和2年3月31日現在の住民基本台帳人口）で割り、町民1人当たりの金額に換算して、家計で使う項目に例えてみました。

収入

給料(町税等)	35万7,800円
両親からの援助(国・県支出金など)	8万3,797円
ローンで賄っている額(町債)	3,111円
合計	44万4,708円

家計と町の財政ではお金の使い方も規模も違うから単純には比べられないところもあるけど、おおよそのようになるよ。



支出

食費(人件費)	7万3,070円
医療費(扶助費)	5万5,125円
ローン返済(公債費)	1万6,016円
光熱水費(物件費)	10万2,015円
自宅の修繕(維持補修費)	8,570円
お祝い金、町内会費(補助費等)	4万2,094円
貯金(積立金)	1万8,136円
知人への援助や貸付(投資及び出資金、貸付金)	7,094円
仕送り(繰出金)	2万2,812円
自宅の増改築(普通建設)	7万8,955円
自宅の増改築(災害復旧費)	101円
来季に支払うお金(繰越明許)	4,408円
繰越金(実質収支)	1万6,312円
合計	44万4,708円

令和元年度決算に基づく健全化判断比率・資金不足比率

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、令和元年度決算に基づく健全化判断比率および公営企業の資金不足比率をお知らせします。

財政健全化判断比率

地方公共団体は、統一的な指標で財政状況を把握するため、4つの財政指標である健全化判断比率を算定し、お知らせすることが義務付けられています。

いずれの指標も早期健全化基準を超えた場合は、イエローカードである「早期健全化団体」となり、改善するための計画を策定する必要があります。

町は、いずれの指標も基準を下回っています。

項目	健全化判断比率	早期健全化基準
実質赤字比率	—	13.32%
連結実質赤字比率	—	18.32%
実質公債費比率	2.9%	25.00%
将来負担比率	—	350.00%

*「—」で表示されている項目は、黒字のため数値が計上されていません。

公営企業の資金不足比率

公営企業会計における料金収入に対する資金不足額(赤字額)に対する比率であり、経営健全化基準を超えた場合は、経営健全化計画を策定する必要があります。

資金不足を生じた公営企業会計はありませんでした。

項目	資金不足比率	経営健全化基準
農業集落排水事業特別会計	—	20.00%
水道事業会計	—	20.00%
下水道事業会計	—	20.00%

*「—」で表示されている項目は、黒字のため数値が計上されていません。

えこたんの解説



「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」は、市町村に議会や住民へ財政状況を知らせることを義務付けた法律だよ。町は「財政健全化判断比率」、「資金不足比率」とともに健全化基準をクリアしているよ。今後も健全財政を心掛けていかなくっちゃね。

決算審査報告

幸田町監査委員

山下 力
杉浦 あきら

決算審査に付された各会計の歳入歳出決算書などは、いずれも関係法令等に準拠して作成されており、その計数は正確で、予算の執行は概ね適正であると認められた。

◎一般会計・特別会計

一般会計と各特別会計の総決算額は、前年度と比較し、歳入・歳出はともに増加し、歳入決算額から歳出決算額を差し引いた形式収支、実質収支は黒字、単年度収支は赤字であった。なお、一般会計の歳入・歳出は増加し、特別会計は減少となった。町税の収納率は、若干上昇したものの、未納者に対しては、状況に応じたきめ細やかな対応と、厳正な措置による滞納整理を継続して行われた。また、主要な財政指標では、単年度財政力指数が上昇し、公債費負担比率については年々着実に減少している。今後も財政力強化のため、自主財源の増強に合わせ、経費の節減と事業の効率化に努められたい。

◎水道事業会計

水道事業会計は、前年度と比較し、年間配水量および年間有収水量ともに減少している。総収益および純利

益についても各々減少している。今後も清浄で低廉な水の安定供給に向け、施設の耐震対策・ライフライン機能強化とともに有収率向上のため施設整備の計画的な実施が必要と考える。

◎下水道事業会計

下水道事業会計は、令和元年度から公営企業会計へ移行した。今後、農業集落排水区域における一部区域の公共下水道接続に関する事業を進めるに際し、計画的な実施に合わせ安定した経営に努める必要がある。

◎総評

令和元年度決算では、法人町民税の減収により町税全体は減収となったが、ふるさと寄附金的大幅な増収により、前年度を上回る歳入を確保できた。財政指標の健全化比率なども、健全な数値と判断することができた。しかし、不確実性の高い歳入財源、歳出では社会保障関係経費、公共施設の維持補修費などの増加要因も多く、予算を許さない行財政運営が続くものと思われる。今後も計画的かつ健全な行財政運営を念頭に、事務事業の必要性、効率性、有効性に視点を置き、適正な公金支出と事務処理に心がけ、住民に求められているものは何かを意識し、より良い行政サービスをより効率的に住民に提供できるよう、一層職務に精励されることを望むものである。（令和元年度決算審査意見から）

令和元年度に実施した主な事業

町民の皆さんの未来につながる暮らしやすいまちの実現に向けて、さまざまな事業を実施しました。その一部をご紹介します。



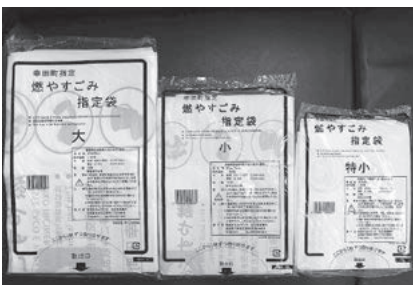
小中学校空調設備設置



藤田医科大学岡崎医療センター
建設負担金



消防ポンプ自動車整備



指定ゴミ袋の値下げ



幼児教育・保育の無償化



幸田駅前土地区画整理事業

問合せ 財政課財政グループ ☎(0564)62-1111(内線323) FAX(0564)63-5139